

表紙

表題

10代の親とその子供たちの心理社会的アウトカムを促進するための、個人および集団ベースの子育てプログラム

レビューワ

Coren E, Barlow J

日付

編集日: 06/02/2002
実質的更新日: 21/05/2001
マイナーな更新日: 30/05/2001
次段階予定日: / /
初回プロトコル公表日: 第1版, 2001年
初回レビュー公表日: 第3版, 2001年

レビューワ連絡先:

Ms Esther Coren
Lecturer in Systematic Reviews
UK Cochrane Centre
Summertown Pavilion
Middle Way
Oxford
Oxfordshire UK
OX2 7LG
電話 1: +44 01865 516 300
FAX: +44 01865 516 311
E-mail: esther.coren14@ntlworld.com, ecoren@cochrane.co.uk
代理連絡人: Jane Barlow

機関内支援

なし

機関内支援

なし

レビューワの分担

両レビューワは、全てのレビューに関わった。

謝辞

Cochrane Developmental, Psychosocial and Learning Problems Review Group の Jane Dennis 氏による進行中の手引きや支援、同グループの Margaret Burke 氏の情報検索支援に感謝する。また、HSRU の経済的支援にも感謝する。

予想される利害の対立

何も分かっていない

新しい点は何か？

日程

初回プロトコル公表日：	2001年1月発行
初回レビュー公表日：	2001年3月発行
最終の実質的更新日：	21/05/2001
最終のマイナーな更新日：	30/05/2001
レビューの再構成日：	//
新しい研究を調べたが発見できなかった日：	//
新しい研究が発見されたが追加・除外されなかった日：	//
新しい研究が発見され追加・除外された日：	//
レビューワの結論部分を修正した日：	//
コメント・批評の追加日：	//
コメント・批評への回答追加日：	//

要約

十代の親の子どもに悪いアウトカムがみられるという、一連の研究からのエビデンスがある。子育てプログラムは、親子のウェルビーイングを促進させるためにますます利用されるようになっているが、このレビューは、これらのプログラムが、十代の親と子のアウトカムを改善するかどうかを確定することを意図している。

このレビューで明らかになったことは、小数の研究を基礎に置いている。そして、それゆえに明らかになったことは限られている。しかしながら、子育てプログラムは十代の母親とその子どもの一連の心理社会的・発達のアウトカムを改善するという点で効果的であると、結果は示している。さらなる研究が必要であるが、とりわけ、十代の親や若い母親や父親の役割の長期的フォローアップを含む研究が必要だと思われる。

要約

背景

10代の両親からの出生率は高く、その子供達の間には、(心身の)発達面と学習面の問題、子供の虐待を含む好ましくないアウトカムの発生率も高い。子育てプログラムは10代の両親と彼らの子供達のアウトカムをともに改善するための重要な役割を持っているかもしれない。

目的

このレビューの目的は10代の母親とその子供において、心理社会上・発達上のアウトカムを改善する個別・集団ベースの子育てプログラムの有効性を検討することであった。

探索手法

MEDLINE, EMBASE, CINAHL, PsychLIT, Sociofile, Social Science Citation Index, ASSIA、コクランライブラリー(SPECTRを含む)、CENTRAL, National Research Register (NRR) と ERICを含む一連の生物医学・社会科学データベースが探索された。

選択基準

参加者が無作為に実験・統制群に分配される無作為統制実験のみを含んだ。なお、後者(統制群)は、キャンセル待ち、無処遇、又はプラシーボ制御群である。また、研究は母親の心理社会的健康か幼児の健康と発達を測る標準化された尺度を最低一つ含まなければならないこととした。

データ収集と分析

選択された研究は、割付の隠蔽を含むいくつもの基準を用いて批判的に評価された。其々の研究の各アウトカムについての処遇効果は、介入や処遇を行った集団の介入後のスコアの平均差をプールした標準誤差で割ることによって標準化された。顕著な(分布の)相違ゆえに、メタアナリシスにおいて結果を加算することは不可能だった。

主たる効果

レビューの結果は、4つの研究データに基づいている。これによると、個別・集団ベースの子育てプログラムは、母子の相互作用・言語発達・親の態度や知識・母の食事中的コミュニケーション・母の自信やアイデンティティーを含む、一連の、母子に関するアウトカム尺度において、介入群がよりよい状況を示すという結果を生じていた。

レビューワの結論

選択された研究数が少なく、アウトカム尺度も限られた数の使用であったため、このレビューから分かる結論は限られている。そして選択された研究のいくつかの方法論的な欠陥という点でも、結論は限られている。だが、これらの問題にも関わらず、選択された研究の結果は、子育てプログラムが10代の母親とその子供のアウトカムを向上させるのに効果的であろうことを示している。しかしながら、10代の親への子育てプログラムの有効性については、さらなる研究が必要である。

背景

1. 10代の親たちの出生率

10代の女性の出生率はポスト工業化社会のいたるところで高くなっている。(その出生率は)、アメリカ合衆国が最も高く(15歳から19歳の女性1000人当たり55人)、さらにニュージーランド(同33人)、カナダ(同25人)と続く。英国における割合(同23人)は西ヨーロッパで最も高く、フランス(同7人)の3倍、オランダ(同5人)の6倍となっている(SocialExclUnit 1999)。10代の妊娠率は恵まれない(経済)水準(にある者)に増加しており、10代の妊娠が出産予定日まで続く可能性は社会経済的剥奪を経験しているグループでより多くなる。これは、より裕福な環境にある10代の若者は人工中絶をする傾向があることを反映している。(Smith 1993; Boulton-Jones 1995; SocialExclUnit 1999)。

10代の母親のもとに生まれることが、子どもたちにとって珍しくなくなっているような文化的背景が世界中で存在する一方、10代の妊娠は発展途上国でも心配の種となっているという、いくつかのエビデンスがある。ペリズ、ブルキナファソ、ドミニカ共和国、ガンビア、ガーナ、ガイアナ、インドを含むさまざまな地域で行われたInternational Sexual Health計画の最近の報告が、10代の妊娠の問題について地域内で相当のレベルの心配が訴えられていることを確認している(Pyper 2000)。南アフリカにあるクワズルナタール州の農村地域における最近の研究もまた、10代で母親になることへの適応が多くの若い女性にとって問題であることを報告している(Parekh 1997)。

2. 早く親になることの意味

早く親になることは、未熟な親自身の発達ニーズと、彼らの子供のニーズとの間の葛藤を伴う(Catrone et al 1984; Erf 1981; Wakschlag 2000)。それは、「非典型的な早期の(役割)移行」の代表例で、それ自体ストレスの原因となる可能性をもつとともに、母親の教育達成と長期間に渡る機会の数々をあきらめさせてしまうことがある(Dawson 1997)。10代の母親たちは、母親でない若者に比べると、フォスターケアや家庭内暴力を含む好ましくない幼年時代の要素を経験してきた傾向があると同時に、より低いレベルでしか教育を達成できていない傾向がある(Oz & Fine 1988)。また、10代の母親たちは、母親でない同輩よりも、より低いアスピレーションしか持っておらず、教育に対する期待も低いような家庭に育ったであろうともいわれてきた(Brooks-Gunn 1995)。このことが、何人かの10代の母親たちについて、親ではない彼らの同輩に比べて、自身の学習可能性への信頼を低下させる可能性を高めており、このことが、彼らの親になるための「認知上の準備」と関わっているとも考えられる。

10代の親たちの子供に関して、発育問題、知的欠乏、発育遅滞、素行問題、低い教育達成を含む好ましくないアウトカムがみられるというエビデンスが、いくつか存在する(Whitman et al 1987; Wakschlag 2000)。しかし、若い母親から生まれた子供のいくらかは、他の子供に比べても、発育の基準においては異なることはないとするエビデンスもある(Buchols 1993)。とはいえ、幾分かは彼らの生活全敗における経験不足のためもあり(Utting et al 1993)、若い親たちほど、子供の発育についての知識は欠けており、有効な子育て技術に欠けているかもしれない(Buchols 1993; Bavolek et al 1979; Reis & Herz 1987; Whitman et al 1987)。

母親の年齢が育児の様々な側面、たとえば母親役割への満足度、母子間の相互作用と子どものアウトカム(Ragozin et al 1982)、育児の能力やしつけに対する姿勢(Reis & Herz 1987)、そして幼児の行動や発育への現実的な親としての期待などにも影響を与えるとすることを示すエビデンスがある(Haskett et al 1994; Field et al 1980; Roosa 1983; Whitman et al 1987)。

いくつかの研究では、若い親が子どもの不適切な扱いをするリスクは高いことを指摘している(Wakschlag 2000; Bucholz 1993)。もっともそのリスクは、多くの若い親たちが経験する環境因子 社会経済的な剥奪、社会的援助の不足、憂鬱、自尊心の低さ、そして心のストレス(Bolton et al 1980; Utting et al 1993) と関連していることが認められている。これは、他の因子がない状態において、両親の年齢は子どもの不適切な扱いの危険因子に必ずしもなるものではないということを示している。

3. 母子の健全な発育における育児プログラムの役割

青年期にある未熟な親のニーズは、より年長の親のニーズとははっきり違っている。特に、彼らの発育上のニーズは彼らを特別な集団として際立たせており、彼らとその子どもたちにとってあまり好ましくないアウトカムをもたらす可能性は、早期介入の必要性を示唆している。育児プログラムの利用は1960年代に始まった。そしてグループを使つての親の指導は1970年代に始められた。現在は育児プログラムは多様な場面で提供されており、最近の無作為統制実験の系統的レビューは、それが育児方法を変えたり幼い子どもの行動上の問題を改善するのに効果的であると報告している(Barlow 1997)。

育児プログラムは母親の well-being を増進させる上でも重要な役割を担っている。最近の無作為統制実験の系統的レビューは、育児プログラムが不安、鬱、自尊心などの母親の機能の諸側面を含む、母親の心理社会的健康を向上させるのに効果的であり得ると報告している (Barlow & Coren, 2000)。

10代の妊娠の予防への興味が増加してきている。そして、今この特別な目的をもった計画がたくさんの国でつくられつつある (Perez 1997; Pierre 1997; Bilodeau 1994; SocialExclUnit 1999)。予防にかかる計画と実践のレビューは最近完成された。(Franklin 2000)。しかし、この専門的な介入は、10代の妊娠の完全な予防に成功するとは思われず、若い親とその子供はハイリスクグループにとどまると思われる。加えて、予防は長期間戦略であり、10代の親の出生率が高いままである。このように、若い親の子育て技術を最大化するための介入は、若い親とその子供のアウトカムを最適化する上で重要と思われる。ヨーロッパでは、10代の親を支援する一連の試み(イニシアチブ)があり、10代の親とその子の精神的健康に関する効果が認められてきた(MentalHealthEurope99)。しかしながら、今なお10代の親と子の両方に関して、特に子育て計画のインパクト(影響)を確認する必要がある。

目的

このレビューの目的は、10代の親の心理社会的健康と、その子供の発達上の健康を改善することにおいて、個人・集団ベースのプログラムの効果を評価することである。レビューは、厳正な方法論的デザインと、一連の標準化されたアウトカム尺度を使用した研究によるエビデンスを評価・対照することを目指した。このレビューは厳密な方法論的デザインと一連の標準化されたアウトカム尺度を用いた研究のエビデンスの評価、収集・整理を目的としている。

このレビューの研究選択基準

研究のタイプ

参加者がランダムに実験群と統制群に割り当てる無作為統制実験。後者は待機者や、処遇を受けない又は偽りの処遇を受けた（プラセボ）者から成る。なお、統制群を用いず、二つの異なった治療学方法群を比べた研究はレビューに含まれていない。

参加者のタイプ

臨床または一般サンプルからの20歳未満の親

介入のタイプ

次の基準をすべて満たした養育プログラムはレビューに含まれた：

- ・*個人またはグループ・ベースフォーマット
- ・*妊娠中、または子育て中の十代に対して出産前後に提供されたもの
- ・*体系化されたフォーマットの使用に基づいたもの
- ・*養育の態度、実践、技術、知識の向上に焦点をあてたもの

次の基準を一つでも満たした養育プログラムはレビューから除かれた：

- *十代の若者の妊娠期間のケア・ニーズに特に焦点を当てている標準化された産前プログラム
- *特に十代の親に向けたものではないプログラム
- *十代の親の子どもたちへの直接的働きかけに関わるプログラム
- *もっぱら十代の若者の妊娠を妨げることもしくは減らすことを目指したプログラム
- *子育てプログラムが家庭訪問の介入と組み合わされているプログラム

注意：家庭訪問プログラムと家庭訪問プログラムに組み合わされている子育てプログラムは、このレビューから除外されていたけれども、家庭で一対一で提供される子育てプログラムはそのレビューに含まれていた。これは家庭訪問プログラムが、家庭に届けられる子育てプログラム（例えば、子育てを特に焦点化した短い構造化されたプログラムとは性質の異なる介入（例えば、長期にわたり頻繁に提供される幅広いベースの支援）であるという事実を反映している。

アウトカム尺度の種類

研究は、妥当性と信頼性のエビデンスがあるアウトカム尺度を用いて下記のいずれかの領域でアウトカムを測定していた。下記の種類のアウトカムが含まれていた。

- ）母親の心理社会的健康 不安、ストレス、憂鬱、自尊心、子育てもしくは子どもの発育についての知識、親役割についての自信
- ）幼児の健康と発育 幼児の認知、社会、精神、発達上の健康

研究確認の探索手法

以下の電子工学データベースを探索：

1. 生物医科学データベース

- MEDLINE Journal articles (1970～2000)
- EMBASE(1980～2000)

2. 社会科学及び一般的データベース

- CINAHL (1982～2000)
- PsychLIT Journal Articles and Chapter/Books (1970～2000)
- Sociofile (1980～2000)
- Social Science Citation Index (1980～2000)
- ASSIA (1980～2000)

3. 他の情報源

- The Cochrane Library including SPECTR, CENTRAL
- National Research Register (NRR)
- ERIC (1970-2000)
- データベースの探索により確認した論文の参照リストを検討し、さらに関連した研究を確認した。体系的・否体系的レビュー論文に関する書目も検討し、関連ある研究を確認した。

探索語句

分野ごとの違いに関しては、使用した探索語句を個々のデータベースの必要条件を満たすように修正した。異なる研究方法 (RCTs) を確認するようデザインされた語句を用いて探索方法を狭めることは、潜在的に関連のある多くの研究を除外する結果を生じることが予備研究によって明らかになった。そのため、特定の方法論をさす語句ではなく、広範囲にわたる探索手法を用い、関連研究が見落とされることのないようにした。

以下の探索タームを Cochrane Library 及び、他のデータベースに用いた：

(PARENT* near PROGRAM*)

(PARENT* near TRAIN*)

(PARENT* near EDUCAT*)

(PARENT* near PROMOT*)

PARENT-PROGRAM*

PARENT-TRAIN*

PARENT-EDUCAT*

PARENT-PROMOT*

HEALTH-EDUCATION*:ME

HEALTH-PROMOTION*:ME

EDUCATION*:ME

ADOLESCENT-HEALTH-SERVICES*:ME

((((((((((((#1 or #2) or #3) or #4) or #5) or #6) or #7) or #8) or #9) or #10) or #11) or #12)

(ADOLESCEN* near PARENT)
(ADOLESCEN* near MOTHER*)
(ADOLESCEN* near FATHER*)
(ADOLESCEN* near MOTHER*)
(TEEN* near MOTHER*)
(TEEN* near FATHER*)
(TEEN* near PARENT*)

PREGNANCY IN ADOLESCENCE : ME

((((((# 1 4 or # 1 5) or # 1 6) or # 1 7) or # 1 8) or # 1 9) or # 2 0) or # 2 1)
(# 1 3 and # 2 2)

レビューの方法

実験の選択

電子データベースを通して確認された、研究のタイトルと概要は、それらが選択基準を満たしているかどうか判断するためにレビューされた。タイトルと概要は Esther Coren によって確認され、Esther Coren (E C) と Jane Barlow (J B) によって読まれ、レビューされた。選択基準を満たしていると思われる、これらすべてのコピーは2人の独立したレビューワ (E C と J B) によって評価された。レビューを含むことの適否が不確実であった場合、3番目のレビューワ (Sarah Stewart - Brown) との協議を通して解決した。

質の評価

二人のレビューワは以下に掲載されている基準によって、選択した研究の批判的評価を行った。まず割付の隠蔽に適した方法を使用しているものを A とした。(例えば、電話番号の無作為抽出、連続した番号の使用、完封された不透明な封筒の使用など)。B は、割付が適切に隠蔽されていたかどうかについて不確なもの。(例えば、隠蔽方法が報告されていない)。C は、割付法が適切に隠蔽されていなかったもの。(例えば、公開されている乱数表や、1日おきの日付や誕生日の日付、偶数や奇数、そして病院の番号のような擬似的な無作為化)。さらに、選ばれた研究は、次の基準に用いて評価された。それぞれのグループの参加者数の減少や脱落の扱い方、失敗者たちの分布の評価をするかどうか。これらの要因の評価結果は、レビューワの記述的説明部分において行った。

データ管理

データは、二人のレビューワがそれぞれ独立に、データ抽出フォームを用いて抽出し、RevMan4.1 に入力した。出版された実験報告書においてデータが提供されていなかった場合には、原著者たちに不明な情報の提供が依頼された。

同質性の検査

集団、介入内容、アウトカムにおける多様性の程度を含め、研究間の相違の程度の評価がなされた。測定されたアウトカムの顕著な違いのために、メタ・アナリシスにおけるデータ結合はなされなかった。

欠損データの分析

欠損データやドロップアウト(した者のデータ)は、含まれた研究各々について検討がなされた。「治療の意図」による分析(I T T分析)に適合する程度についても検討がなされた。

データの統合

研究ごとのアウトカムに対する治療効果は、介入・治療グループの介入後スコアの平均差を割ることによって標準化された。含まれた四つの研究における異質性、すなわちそれらの研究が全て異なるアウトカムを測定していたという事実ゆえに、メタ・アナリシスにおいてデータを結合するのは不可能であった。個々の研究における、個々のアウトカムについての効果の大きさと95%の信頼区間差が提示された。

研究の記述

合計290の要旨がレビューされた。何も生じなかったNational Research Registerを除き、探された全データベースは、関連のある要旨を生じた。多くの要旨がデータベース間でくり返すうち出された。研究が10代の妊娠の予防のみに関心をよせていることが要旨から明らかである場合は、レビューされなかった。MEDLINEから4つ、EMBASEから5つ、CINAHLから17個、ASSIAから10個、ERICから55個、PsychINFOから72個、そしてthe Social Science Citation Indexから62個の要旨がレビューされた。全てのレビューされた論文は英語で書かれたものだった。

要約の多くはその出所について Dissertation Abstracts International と書かれていた。これらの研究のフル・コピーはその多くがアメリカで出版された博士論文であったため利用できなかった。したがって、これらの論文はレビューされなかった。レビューされた290の要約のうち、267は直接の関連性がないことが示された。これらの要約の多くは子育てプログラムを扱っていなかったが、幅広い探索方法を使用した結果として確認されたものである。除外された論文の多くは介入の効果を評価しておらず、また、いくつかは予防プログラムの評価を目的としたものだった。多くの研究論文は、方法論的な理由のため、もしくは、その研究が適切なアウトカムを含んでいない、介入が家庭訪問ベースのみで提供された、通常の医療や出生前のケアからなる標準的な出産前プログラムから構成されていた等、特定の選択基準と一致しなかったために除外された。

レビューした23の研究のうち、19以上が除外された。これらのうち12の研究はまず、主に方法論的な理由のために除外された。すなわち、その研究論文がRCTでなかったり、制御群を使用しなかったりしたためである。(Badger 1981, Britner 1997, Butler et al 1993, Cook et al 1995, Dickenson 1992, Emmons & Nystul 1994, Fultonet al 1991, Kissman 1992, Roosa & Vaughn 1983, Roosa 1984, Treichel 1995, Weinman et al 1992) 5つの研究はそれらが家庭訪問の要素を含んでいなかったため除外された。(Brophy & Honig 1997, Field et al 1980, Field et al 1982, Koniak Griffin 1999, Wagner & Clayton 1999)

1つの研究は、標準化されたアウトカムの尺度が用いられていなかったため除外された(Westney et al 1987)。さらにもう1つの研究は、評価されたプログラムが、本質的に典型的出産前プログラムで(Porter 1984)、心理社会的かつ子育てに関わる要素をほんのわずかしき含んでいなかったため、除外された。最終レビューは10代の親の子育てプログラムの有効性にかかる4つのRCTを含んだ(Black and Teti 1997 ; Lagges & Gordon 1999 ; Truss et al 1997 ; Koniak - Griffin 1992)。

Koniak - Griffin(1992)は介入前後で RCT を行った。31人の健康な子をもつ未熟な母親が宿泊施設のある産院から新たにリクルートされた。そのうちの15人は介入群で16人は統制群であった。子育てプログラムは、1対1で提供され、ビデオテープ録画された組織的な作業と、看護師からの意見・感想を利用するものだった。評価されたアウトカムには母親の態度や振る舞い、子供との会話が含まれた(Nursing Child Assessment Teaching Scale)。

Black and Teti (1997) は介入前後測定を用い、RCTを行った。彼らは、高校や、女性と子供の診療所(WIC)・低所得者家族支援センターから、アフリカ系アメリカ人の初めて子を持つ未熟な母親59人をリクルートした。介入群には26人、統制群には33人いた。子育てプログラムは、文化差に気を遣いつつビデオテープ録画された食事中の行動を描いたビネットを用いながら、1対1で提供された。食事中的の子供の行儀や会話に対する母親の態度は2つの手法、すなわち子供の食事に対する調査と親子の早期関係評価(改訂版)を用いて、介入前と後で評価された。

Lagges & Gordon(1999)は、層化無作為統制実験を行った。すなわち、各階層に無作為に割当て、介入前後に測定を行った。学校ベースのGRADプログラムに在籍している62人の妊娠中又は子育て中の若者が、介入にあたって募集され、階層ごと無作為に割当てられた。介入群には33人の母親が、統制群には29人の母親が選ばれた。子育てプログラムは1対1ベースで提供され、コミュニケーション能力や問題解決、子育て技術に取り組む対話型ビデオディスクのプログラムが含まれた。子育ての知識と意識は、親としての意識調査と子育て知識テストを使った介入の前後の段階で測定された。

Truss ら (1977) は、前後測定を伴う無作為統制実験を行った。127人の妊娠中又は子育て中の若者が10代の親のためのプログラムのある外来患者に対する診療室から募集された。彼らの子供は6ヶ月未満でプログラムを開始された。介入群には83人の母親が、統制群には12人の母親が選ばれた。プログラムを完了しなかった32人の参加者は分析に含まれなかった。子育てプログラムはグループを重点に置き、子供のマネジメントと幼児に対する効果的な刺激に焦点を当てている。パンフレットは、子供の発達段階に適合的と思われる48ヶ月間郵送された。幼児の認知発達(言語習得)はthe Bzoch League Receptive Expressive Emergent Language Scale (ブゾック・リーグ受容・表現初期言語尺度)によって測定された。

選択された研究における方法面での質

割り付けの隠蔽

選択された研究のどれもが割り付けの隠蔽を具体的に挙げていなかった。より詳細を確かめるために、3人の著者と接触が試みられた。4人目の著者(Truss et al 1977)と接触する事は不可能であった。接触を試みた3人の著者の中で、一人だけ応答があった(Lagges & Gordon 1999)。このケースにおいては、無作為な数の一覧表が、学校のクラスを違った状態に割り当てるのに用いられた。著者は、生徒達がどのグループにいるかということを明確に伝えないということを規定した。

グループの参加者数

二つの研究における参加者数は少ないようである(Koniak-Griffin 1992, n=31, Lagges & Gordon 1999, n=8 classes)。Lagges & Gordon 1999の場合、8つのクラスを介入群・統制群に無作為割付する層化無作為化実験デザインが使用された。層化無作為化は、(より高いタイプ1エラー・リスクと共に)結果の正確さを過大評価を生じうるが、分析においてその使用は補われていなかった。標本規模の計算においてこのデザイン効果が考慮されているかどうかについての情報はなかった。従ってこの研究の結果は、注意して扱われるべきである。(詳細は下の討論を見よ)

残りの3つの選択された研究はいずれも、標本規模の計算についての詳細も、研究の検定力強化のための変化規模についての情報も提供していなかった。

盲検化

子育てプログラムの試みにおいて、プログラムを進行させている人と親のいずれにおいても、実行されている、または受けられている処遇のタイプをわからなくすることはできない。親や研究スタッフにわからなくすることができないことから生じたバイアスを最小化する方法の一つは、客観的なアウトカムの評価をわからなくすることである。含まれた研究のうち、独立の評価を要するアウトカム尺度を用いた研究は一つもない。すなわちすべての研究が自己申告尺度を使用しており、したがって盲検化は不適當である。

研究終了時における親に係る説明・帰属

三つの研究は評価からドロップアウトした参加者と追跡調査できなかった参加者について原因を説明していた(Black and Teti 1997 ; Lagges & Gordon 1999; Truss et al 1977)。ドロップアウトは8%から33%の範囲に及んでいる。一つの研究のみ、なぜ親がこのプログラムを続けられなかったのかについての情報を提供しており(Truss et al 1977)、二つの研究がドロップアウトした親の人口統計的特徴の詳細を提供していた(Black and Teti 1997 ; Truss et al 1977)。双方の研究において、完全にプログラムを終えた者とそうでない者との間に顕著な違いは見受けられなかった。

このレビューの含む研究はいずれも、ドロップアウトや追跡調査における欠損にかかわらず行う無作為化されたグループ参加者の分析(つまり治療を意図した分析)をしていない。そして、この結果が処遇効果の過大評価につながる可能性は否めない。

交絡因子の配分

無作為化の使用が、理論上は、存在する可能性のあるどんな交絡因子も等分に集団群間に配分されることを保証するはずである一方、少数の研究参加者の無作為割付では、交絡因子が結果的に不規則に分配される可能性がある。一つの研究のみが、起こりうる交絡因子（すなわち、統制群と介入群が実験の開始時にどの程度似ていたかについて）の配分の情報を提供していた（Lagges&Gordon1999）。

結果

次の節は、選択された研究の結果の要約である。尺度が特にその研究目的のために作られ、すなわち尺度の妥当性や信頼性のエヴィデンスがない場合を除き、各研究の結果はすべて報告されている。報告されない唯一の尺度は次の通り：親としての役割についての自信、子供に費やす時間の質と量、平手で尻を打つ頻度、そして共感の水準を評価するためにデザインされた補完的アンケート；子どもと遭遇しがちな4つのシナリオ - これらはすべて、研究目的のために特につくられた（Lagges&Gordon1999）；Bayley Scales of Infant Development-結果なしと報告した（Truss et al 1977）。

その結果は効果の規模と95%の信頼区間で示され、マイナスサインは結果が介入群について良好だったことを示す。注意すべき点であるが、介入後のスコアは変化のスコア（すなわち、それぞれの集団の介入前後のスコア）というよりは効果の規模を算出するために用いられた。これは、変化スコアの算出には変化の標準偏差が必要であるが、これらのデータがどの選択された研究においても得られなかったという事実を反映している。

第一節で子どものアウトカムの測定結果を、第二節で母親のアウトカムの測定結果を示す。

第一節：子どものアウトカム

1:1 育児評価教育尺度 Nursing Child Assessment Teaching Scale (Barnard 1978, Barnard1989) (親に対する反応に関する下位尺度 Responsiveness to Parent Subscale)

Koniak-Griffin1992 は、ビデオ教材とフィードバックを用い家庭において1対1で行われた子育てプログラムについての評価をおこなった。この研究では、Nursing Child Assessment Teaching Scale (NCATS) を用いて母子間の相互作用を検討した。NCATSは母子間の相互作用を6つの下位尺度によって測定する。6つのうち4つは、相互作用における保護者の行動を、後の2つは子どもの行動面を評価する。なお、Responsiveness to Parent Subscale (親に対する反応に関する下位尺度) では、子どもが親に対してはっきりとした反応をどの程度示すかを測定している。この尺度による結果は、介入群の子どもを優位とする大きい効果を示しているが、有意性は見られない。

1:2 Nursing Child Assessment Teaching Scale (乳幼児に関する下位尺度 Baby Subscale)

上記の研究では、母子間の相互作用において子どもの非言語的なサインを明快にするのに、ビデオテープを用いた子育てプログラムは有効かどうかをNCATSのBaby Subscale (乳幼児に関する下位尺度) によって検討した。

その結果は介入群の中の幼児を優位とするような有意な相違はみられないことを示している。

-0.51 [-1.23, 0.21]

1:3 Bzoch-League Receptive-Expressive Emergent Language Scale(Bzoch-Leagueの受容 - 表現言語尺度) (Bzoch & League 1971) (Receptive Language Score 受容力言語スコア)

Trussら(1977)は10~12週間のグループ単位の幼児の発達の促進に焦点を当てた子育てプログラムの有効性を評価した。さらにその介入群への参加者には子どもの人生の最初の48ヶ月の間2ヶ月ごとに母親と幼児の相互作用を高めるようにデザインされたパンフレットが送られた。言語を理解し反応する幼児の能力はBzoch-League のReceptive-Expressive Emergent Language ScaleのReceptive Languageスコアを使って測定された。その結果は介入群の中の幼児を優位とするような有意な影響はなかった。-0.52 [-1.13, 0.09]

1:4Bzoch-League Receptive-Expressive Emergent Language Scale (Expressive Languageスコア)

Trussら (1977) はReceptive-Expressive Emergent Language ScaleのExpressive Languageスコアを使って幼児の表現言語における上述の子育てプログラムの有効性を評価した。その結果、介入群の中の幼児を優位とするような影響は小さく、有意性がないことを示している。-0.24 [-0.84, 0.37]

1:5 言語発達のUtahテスト (Mecham及びその他の者1967)。

Trussら (1977) は言語発達のUtahテストを用い、言語発達における上記の子育てプログラムの有効性を評価した。これは二歳、すなわちこの研究由来の他のすべての尺度から一年後に評価されたことは言及されるべきである。その結果は介入群の幼児たちを優位とするような有意な効果はないことを示している。-0.20 [-0.91, 0.50].

第2節: 親のアウトカム

2:1 親の意識アンケート

Laggés&Gordon (1999) はグループ討論を伴う簡単な対話式レザードィスクの親の養成プログラムを評価した。親の意識は親の意識アンケートを用いて評価された。この方法の唯一の妥当性と信頼性データは未公表の博士論文であり、テスト・再テスト信頼性は現在の研究の本文で記述されていることは注意すべきである。その結果は介入群を優位とするような有意な効果はないことを示している。-0.5 [-1.07, 0.07].

2:2 子育て知識テスト (Hupertz 1995; Kacir 1997; Segal 1995)

Laggés&Gordon (1999) はまた子育て知識テストを用いて子育て知識の向上のための上記の子育てプログラムの有効性を評価した。この尺度の公表された妥当性信頼性データはないこと、そしてそれはこの研究目的のために特別にデザインされた可能性があることは言及されるべきである。結果は介入群が優位となるような大きく有意な効果を示している。-0.95 [-1.54, -0.36].

2:3 子供の食事アンケート(Daviesら 1993)

Black and Teti 1997は、アフリカ系アメリカ人の若い母親に適切な食事時のふるまいの手本となる、文化差に配慮した15分のビデオテープを用いた。食事時間に対する親の姿勢の変化が「子供の食事についてのアンケート」を用いて評価された。その結果は介入群の親を良好とする有意な効果を示している。 -1.28 [-1.84, -0.71].

2:4 親と子の初期関係評価(改訂版)-母親の食事時のコミュニケーション(Clark 1999; Farran 1990)

Black and Teti 1997は母親の食事時のコミュニケーションの変化を測るために親と子の初期関係評価の改訂版を用いた。その結果もまた介入群の親を良好とする大きく有意な効果を示している。 -0.54 [-1.07, -0.02].

2:5 育児評価教育尺度 (合計スコア)

Koniak-Griffin 1992 は育児評価教育尺度を用いて、母親と幼児との相互作用の改善における4.1節で記述された子育てプログラムの有効性を評価した。全スコアでの結果は、介入群の親を良好とする大きく有意な効果を示している。 -0.79 [-1.53, -0.06].

2:6 育児評価教育尺度 (母親の下位尺度)

Koniak-Griffin 1992 はNCATSの母親の下位尺度を用いて、相互作用での母親の感受性の改善における4.1節で記述された子育てプログラムの有効性を評価した。結果は、介入群の親を良好とする大きく有意な効果を示している。 -0.82 [-1.56, -0.08].

2:7 育児教育評価尺度 (認識発達養育尺度)

Koniak-Griffin 1992 はNCATSの認識発達養育下位尺度を用いた研究において、母親の認識発達養育能力の改善において、4.1節で記述した子育てプログラムの有効性を評価した。その結果は、介入群の親を良好とする大きく有意な効果を示している。 -0.61[-1.34, -0.11].

2:8 意味に関する格差尺度 (Walker 1980; Walker 1982)- 母としての自分

Koniak-Griffin 1992 は意味に関する格差尺度のうち'母としての自分'下位尺度を用い、母親であるというアイデンティティ側面の改善において、4.1節で記述した子育てプログラムの有効性を評価した。この下位尺度は '母としての自分' 概念の評価側面を測るものである。結果は、介入群を良好とする大きく有意な効果を示している。 -0.81[-1.55, -0.08].

2:9 意味に関する格差尺度 -自分の子

Koniak-Griffin 1992 は意味に関する格差尺度のうち'自分の子'下位尺度を用い、特に子どもについての母親の考え・意識に係る母親アイデンティティの改善における、4.1節で記述した子育てプログラムの有効性を評価した。結果は、介入群を良好とする大きく有意な効果を示している。 -0.78 [-1.51, -0.04].

2:10 Pharis自信尺度 (Pharis 1978)

Koniak-Griffin (1992) は、通常の育児作業における母親の自信の改善における4.1節上部に記述された育児プログラムの有効性を評価するためにPharis自信尺度を用いた。この方法の唯一の妥当性と信頼性データは、発表されていない博士論文の一部として提供されていることは注意されるべきである。結果は介入群を良好とするような有意な効果はみられなかったことを示している。42 [-1.13, 0.29].

2:11 Caldwell家庭評価表 (誕生から3歳まで) (Bradley/Caldwell1977)(母親の子どもとの関わり)

Trussら (1977) は、家庭評価表を用いて、母親の動機づけの改善における1.3節上部に記述された子育てプログラムの効果を評価した。結果は介入群を良好とするような有意な効果はみられなかったことを示している。-0.35 [-1.00, 0.31].

討論

このレビューの結果は4つの研究の結果に基づいている。4つの選択された研究のうちの1つは個々の子どもではなく、教室を用いて無作為割付を行う層化無作為統制デザインを利用していた (Lagges & Gordon 1999)。この研究では、層化無作為化を用いる場合必要な参加者総数の、個人の無作為化を用いる場合必要な人数に対する比率として定義される「デザイン効果」については何の手当もなされなかった。さらに、研究の分析段階で層化デザインについて何の配慮もなされなかった。層化デザインへの配慮不足は、第一種の過誤、あるいはプラスの処遇効果を生む確率を高める結果となる可能性がある (Cornfield 1978; Donner 1982; Murray et al 1994; Rooney & Murray 1996)。それゆえに、この研究結果は注意して扱われるべきである。

有効な研究の少なさゆえ、このレビューで達しうる結論は限られる。合計4つの乳児アウトカム尺度を得ることはできた。うち2つは、介入群を良好とする大きな、しかし有意でない結果を生じた。(Koniak-Griffin 1992 ; Truss et al 1977) これらの結果は、特に10代の親に向けられた子育てプログラムが、個人ベースとグループベースのいずれにいても、乳児の親への反応、乳児が出す合図の分かりやすさ、乳児の言葉への理解・反応能力といった、乳児アウトカムの改善において有効であることを示している。親のアウトカム尺度 (親の態度、知識、技量を含む) について得られた12の結果中3つは、層化無作為化デザインを使用した Lagges & Gordon (1999) の研究によるものである。従って、上述のように、これらの結果の解釈に際してはいくらか用心すべきである。一つ研究は、母親の感受性、母親アイデンティティ、母親の自信、母親の認知発達養育能力において大きく有意な変化を報告していた。(Koniak-Griffin 1992) そして、さらにもう一つの研究は、介入後の食事時間に対する母親の意識と母親の食事時のコミュニケーションにおいて大きく有意な相違を報告していた。

選択された研究は、10代の親への介入が行われた場面が、学校をベースにしたプログラム(Lagges&Gordon1999)、健康に関連した場面(Trussら1977)、宿泊施設のある産院をベースにしたプログラム(Koniak-Griffin 1992)、地域の健康を守る診療所や家族を支援する中央施設をベースにしたプログラム(BlackとTeti 1997)を含む、広範囲にわたっていたことを反映している。しかしながら、一つの研究だけは、そのプログラム供給者、すなわちこの場合看護専門家に関する情報を提供していた。

一つの研究で用いられた2つの尺度については、利用可能な妥当性・信頼性データが公表されていないことは注意を要する(Lagges&Gordon1999)。また、一つの研究においては、1つの尺度は、何のデータ提供もなく、乳児の発育測定に用いられたことが示唆されていた。

4つの選択された研究から得られた結果を一般化することは、多くの要因のために妥協を求められる。選択された研究での脱退者率の平均は、通例の28%よりはるかに低いが、ある研究において親の脱退者の最大値は33%だった(Trussら1977)。育児プログラムからの脱退を予測する要因に関する研究から、10代の親は年配の親に比べて、より脱退する傾向がある、ということがわかる(Danoffら1994)。また、子供との関わりや自分自身の役目を果たすこと、また暮らしの出来事から多大なストレスを感じると訴える母親と、社会経済的に不利な状態にある家族は、脱落する可能性が高い、ということを示している。他の研究では社会的に低い階級の人達や少数民族集団を含む個人は、途中でやめる傾向が強いことを確認している(Farrington 1991, Strain et al 1981, Holden et al 1990)。10代の親たちのこういった社会事情の広がり具合から考えて、ここで議論されている研究からの脱落率は勇気づけられるほど低いものである。

選択された研究のすべては、研究に参加することを進んで申し出た両親からのサンプルに基づいていた。自ら問い合わせ、自発的にプログラムに参加した両親は、広範囲の現集団の代表とは言えない。それは重要なことに恐らく、専門機関から任された両親よりも自分から参加した両親の方が、強い動機付けをもっているためである。これは、もう一度言うが、結果の一般化を限られたものにする。

このレビューでの4つの選択された研究は、すべて10代の母親に向けられていた。一つの研究は、父親をリクルートしていたものの、分析の中で、父から得られた結果は含められなかった(Lagges & Gordon 1999)。従って、このレビューで明らかになったことは、両親ともに当てはめられるべきではない。そして、一つの研究は特に African-Caribbean の母親に焦点を当てていた(Black and Teti 1997) のに対して、他の選択された研究は母親たちの民族的なプロフィールは混ぜられた。これは、結果が一連の民族集団からの母親と関係があるということを示している。しかしながら、すべての研究はアメリカで処理されたので、分かったことを他の社会的・文化的背景に一般化する前に、注意がなされねばならない。

レビューの結論

実務への示唆

本レビューの結果は、選択された研究の少なさゆえに、必然的に制限される。参照した方法面での問題にもかかわらず、結果は子育てプログラムが10代の親とその子ども両方にとって、一連のアウトカムを改善する点で有効であるということを示している。

本レビューの結果の依拠する4つの研究はすべて、健康、教育、地域生活場面を含む様々な場所で、10代の母親に提供された子育てプログラムを評価していた。どの研究もサービス供給の場所について理論的根拠を議論しておらず、理由は実用的なものであったと思われる。この研究で確認された一連の（サービス供給）場所の存在は、親および彼らの子ども達にとって有益なアウトカムを最大限にするために、どの場所においてプログラムが最も適切に提供されるということをサービス供給者が考慮する必要性を示唆している。いくつかの選択された研究において、ドロップアウトや脱落が少数また高水準だったことを考慮すると、子育てプログラムへの10代の親の参加を最大限にするような勧誘と維持の方法にも一層の考察が必要である。さらに、一連の異なる場面にわたり、10代の親のためのサービスがかなり発達しているようにみえる一方で、異なる供給者間の調整の実態あるいは方法に関しては、既存研究にほとんど論議がなされていない。

10代の母親が「親になる」移行過程において10代の父親の果たす重要な役割を示す研究エビデンスがいくつか存在する一方(Westney et al 1987)、父親は概してサービス供給の開発において「おろそかにされるか誤解される」傾向があった(Kiselica 1999)。子育て処遇に低所得の父親をリクルートする際に確認された困難は、父親の母親や子供に対するコミットメントの欠如、サービスへの不信感、文盲や性格上の問題を含む(Honig 1991)。しかしながら、いくつかの研究は、プログラム供給に父親を関与させることが、父親一般(McBride 1991)、そして特に10代の父親(Westney et al 1987)に利益をもたらすことを示している。このエビデンスは、子育てプログラムにおいて、10代の父親のより大きな関与を促す必要性を示唆している。

研究への示唆

このレビューは、10代の親のための子育てプログラムの効果を評価する厳密な研究が不足していることを反映している。結果は子育てプログラムが10代の親のアウトカムの改善において効果的である可能性を示唆しているが、このレビューの含む研究数が少なく測定されたアウトカム数が限られているため、達しえる結論は限られている。

このレビューは、10代の母親について母・乳児/子供双方のアウトカムを改善させることにおいて、個人および集団ベースの子育てプログラムの及ぼす効果について、さらに厳格な研究を行う必要性を示している。特に、研究の外的妥当性を向上させるような、多数の10代の親をリクルートした研究が求められている。選ばれた研究はいずれも、得られたアウトカムに関して過程要因（たとえば集団過程や促進者の技術等）の果たした役割を論じていない。

仲間グループの関係は、育児プログラムに参加するかどうかを決心しようとしている、10代の両親にとって、重要な考慮すべきことであるだろう。そしてこの観点から、集団単位のプログラムの利得を考慮することは、サービスの評価者にとって役立つであろう。10代の母親に対する介入のグループプロセスにおける潜在的な役割は認められてきたところである。(Schamess 1990;Parekh1997)しかしながら、親としての機能に関してポジティブなアウトカムを生み出すグループプロセスの役割に焦点をあてた研究は、今日ほとんど存在しない。にもかかわらず、おそらく、グループの進行役/統率者が、特定のプログラムを続けることだけでなく(Frankel 1992)参加している両親の間に開放感や信頼の雰囲気をつくるのを手助けしたり、両親が尊重され、理解され、支持されていると感じるのを助けたりすることにおいて、重要な役割を担っているように思われる。グループの統率者は、感情移入・誠実さ・敬意といったような属性やユーモアのセンス・熱意・柔軟性・あたたかさといったような個人的特性を観察学習することにおいて、重要な役割を担っている。

さらに、将来における研究は、理想的にはより広い範囲のアウトカムの評価、とくに10代の両親を持つ子供たちにとって、発達上の問題、知的欠陥、発達遅延、素行問題、幼児虐待、教育上のアウトカムや生活における機会を含むアウトカムがより悪いという、既存の証拠があるアウトカムの評価を含むべきであろう。さらに、10代の両親に関する論文で発見されたネガティブなアウトカムの多くは、幼児にとってだけでなく、年長の子供にも同様に、影響が示唆されている。これは、年長の子供たちにおけるアウトカムを評価する、長い期間の追跡調査研究が必要であることを示している。

将来における研究は、ボランティア以外の親、すなわち育児プログラムを受けるよう言われた親を含むべきである。また、十代の親にとっての育児プログラムの有効性の研究において、十代の父親を含む必要性がある。

学校単位の設定での、育児プログラムの今後の評価は、層化無作為化デザインの使用と関連があるであろう。このようなデザインが使われた場合、とくに標本規模の推定とデータ分析とともに、層への割り付けの効果の補正に関して、さらなる厳密さが必要となる。

選択された研究の特性

研究論文 ID	方法	参加者	介入	アウトカム	注	割付の隠蔽
Black and Teti 1997	前後尺度を用いた RCT(無作為抽出統制実験)	健康な赤ちゃんを持つ10代のアフリカ系アメリカ人の母親(20歳未満)59名。学校や小児科医院、家族サポートセンターで募集した。	1対1を基準として介入を行った。ビデオテープによる模範と食事場面の観察(n = 26)。処遇を行わない統制群(n = 33)	食事時のコミュニケーションにおける母親の態度。母親の食事時間のコミュニケーション。		B
Koniak-Griffin 1992	前後尺度を用いたRCT	宿泊施設のある産院で募集した10代の母親(20歳未満)のボランティア31名	1対1を基準としてビデオテープによる模範とフィードバックの介入を行った(n = 15)。プラシーボ統制群(n = 16)	母親の振る舞いと赤ちゃんの母親に対する反応。母親アイデンティティ。赤ちゃんの世話に対する自		B
Lagges & Gordon 1999	前後尺度を用いた層化無作為化RCT	10代の親に対する学校をベースとしたプログラムを受けている中から募集した、妊娠または子育てをしている10代の若者ボランティア62名	グループの要素も含む個人への介入。相互作用のビデオディスクの子育てプログラム(n=33)。キャンセル待ち統制群(n=29)。	親としての態度。子育ての知識。ビデオのシナリオ。		B
Truss et al 1977	前後尺度を用いたRCT	10代の親に対するプログラムを提供しているクリニックで募集した妊娠中または子育て中の10代の母親ボランティア127	48ヶ月間冊子を送るグループベースのプログラム(n=127)。統制群	幼児の知的・言語発達、母としての子供との関わり合い。		B

除外された研究の特徴

研究 ID	除外の理由
Badger 1981	<p>統制群がない。毎週の出生後の母親乳児学級を毎週の指導を含まない家庭訪問プログラムと比較する。またリスクの高い母親とリスクの低い母親も比較する。12ヵ月後の結果は乳児発達の尺度において子育てクラスの高リスクの母親の乳児は家庭訪問を受けているリスクの高い母親の乳児よりもよい振る舞いをしたと示した。どちらのグループでもリスクの低い母親の乳児については振る舞いに違いはなかった。 n = 48 組の母と乳児</p>
Britner 1997	<p>無作為化はなく、一致した統制のみ。12週間にわたるグループをベースとした親の教育と支援のプログラムを幼児虐待のリスクのある若い母親を対象にデザイン。結果は、児童虐待の証拠のある訴えの減少、より高いレベルでの学校教育の修了、より低いレベルでの後の妊娠率、そして介入群の親の子育て知識・意識の短期的向上を示した。 介入 n = 125 名 ; n = 統制 140 名</p>
Brophy & Honig 1997	<p>家庭訪問プログラム。無作為に介入グループに割り当てた母親が3ヶ月間毎週家庭訪問を受けた。結果はグループ間で子育て技術にはっきりとした違いがないことを示した。母親への影響はプログラム参加よりも積極的な子育て実践とよりはっきり関連していた。 介入 n = 27 名 ; n = 統制 19 名</p>
Butler et al 1993	<p>統制群なし、一致した比較群のみ。ストレスの減少と親としての能力向上を目的として、1年間続く同年代（大学生）の擁護介入プログラム。介入群の介入後の子育て態度は、統制群のそれより著しく良かった。介入 n = 29 名 ; 統制 n = 28 名</p>
Cook et al 1995	<p>統制群なし。比較群として妊娠も子育てもしていない十代。アメリカで広く提供され、学校への出席を維持するためにデザインされた学校でのプログラム（GRADS）。子育てと子供の発達の構成要素を含む。研究は制御に関する意識（locus of control）と自尊心の点におけるプログラムの影響を評価した。結果、グループ間に違いは見られなかった。グループ参加者 n = 85 名</p>
Dickenson 1992	<p>統制群なし。パンフレットによって毎月参加者に届けられるプログラム。結果は子育ての態度、信念、実践において、プラスの影響を提示した。70人の参加者が118の独自に形成されたテスト後の尺度を完了した。</p>

- Emmons&Nystul 1994 無作為割付ではない。「効果的家族生活プログラム」のPREPを含む出産前グループ。処遇群は比較群よりも民主的育児態度について高スコアを示した。自己概念の有意な相違はみられなかった。介入 n = 9 人の母親。比較群 n = 9 人 ; 10 人。
- Field et al 1980 家庭訪問プログラム。子供の世話や発達についての母親の知識の促進や、プラスの相互作用や年齢相応の刺激を促進するために、隔週に 2 人が 30 分間家を訪問する。母親の態度や期待と乳児の成長や発達の両面において介入群の改善がみられた。早産児を持つ十代の母親 60 人を含む 150 人の母親。
- Field et al 1982 二つの介入群と一つの統制群の比較。一方の介入は家庭訪問を含み、他方は育児状況における親や仕事のトレーニングを伴う。結果は、育児の介入に参加した母親たちに大きな利益をもたらしたことを示した。両介入群の乳児の成長・発達は統制群よりも良好だった。n=80 人の母親。
- Fulton et al 1991 統制群なし。育児や子供の発育に関する情報を広めるための専門家による家庭訪問 (1 ヶ月に 2 回) や、親によるセンター訪問 (1 週間おき) を含む 4 ヶ月プログラム。結果は介入後の子供の発育における知識の増進を示していた。プログラムの始まりと終わりで自尊心に違いはない。10 ヶ月後のフォローアップでは、子供の虐待で通告されたプログラム参加者はなかった。n=76 人
- Kissman 1992 不透明な割付法。学校に設けられたある一学年度における毎週のグループワークの会合は、子育ての能力の強化、社会支援の促進、子育て知識の増大を目的とし認識行動アプローチを用いた。結果は社会支援利用や子育て意識における介入群の改善を示している。介入 n=25 人 統制 n=94 人
- Koniak Griffin 1992 群の割付についての情報はない。子育てプログラムは 4 回のグループ・ミーティングと 17 回の家庭訪問を通じて提供された。その結果、介入群はよりよい分娩前後のアウトカムと乳児の入院数の減少を示した。介入 n=63 人 統制 n=58 人
- Porter 1984 子育てプログラムではない。集団と個人の要素あり。健康増進を含む出生前プログラム。目的は、自尊心の強化を含むセルフケアの増進、子供の発達、一般的な乳児のヘルスケアを目的としている。「患者中心のアプローチ」であった。アウトカムに関する情報はなし。

- Roosa & Vaughn 1983 RCT ではない。3つの集団は：1) 家庭生活、育児、子供の発達に関する内容を含む代替カリキュラムを、子供を保育プログラムに預けて受講する母親群、2) 託児所の提供がない代替カリキュラムを受講する群 3) 標準カリキュラムを受講する群。母親の教育達成、出産・育児に関する母親としての知識を除き、結果として集団間に主要な差はほとんどなかった。集団1 n=15名; 集団2 n=23名; 集団3 n=24名
- Roosa 1984 統制群なし。被験者はアリゾナ州の学校単位の3つのプログラムから集められた。31名の被験者が試行の前後でアンケートに答えた。プログラムには、家庭生活、育児、子供の発達に関する講座があったが、そのプログラムの全体としての目的は教育上のアウトカムを向上させることであった。子供の発達に関する知識については効果が見られたが、母親の態度については変化がなかった。
- Treichel 1995 統制群なし。かつて自分自身も若くして母親になった女性らの協力によって、子育てに関する支援や情報がグループ単位で提供された。グループは2年間にわたり週一度(のペースで)集まった。結果として育児についての態度や考えが改善した。n=336名。41ヵ所からの参加者79名がAAPIを終えた。
- Wagner&Clayton 1999 家庭訪問プログラム。親の教育担当者は、子育て技術、子供の知識の発達強化、こどもの学校準備をねらいとする。親としての姿勢、知識、振る舞いにおいていくらかプラスの効果がみられた。すべての集団では、子供の知識や健康において利益はみられなかったが、下位集団の分析ではいくつかの利益が明らかになった。介入 n=298名; 統制 n=199名。
- Weinman et al 1992 統制群なし。親の教育プログラムは8週間、十代の母親達や彼女らの子供達のために集中的に提供された。AAPI後のテストでプラスの効果がみられ、それはフォローアップでも維持されていた。Future Events TestとLocus of Controlでは明確な変化はなかったが、自己イメージアンケートでは変化あり。n=73名。
- Westney et al 1987 妥当性が証明されていない尺度を使用。出産前の教育は十代の父親と推定される者に向けられた。実験集団は妊娠や出産前の管理、試験後の幼児の発達と子供の管理についての知識において有意な利益を示した。介入 n=15名; 統制 n=13名。

参考文献

含めた研究

Black and Teti 1997

（公表されたデータのみ）

Black M M and Teti L O. Promoting Mealtime Communication Between Adolescent Mothers and Their Infants Through Videotape. *Pediatrics* 1997;99(3):432-437.

Koniak-Griffin 1992

（公表されたデータのみ）

Koniak-Griffin D, Verzemnieks I and Cahill D. Using Videotape Instruction and Feedback to Improve Adolescents' Mothering Behaviours. *Journal of Adolescent Health* 1992;13:570-575.

Lagges & Gordon 1999

（公表されたデータのみ）

Lagges A M and Gordon D A. Use of an Interactive Laserdisc Parent Training Program with Teenage Parents. *Child and Family Behavior Therapy* 1999;21(1):19-37.

Truss et al 1977

（公表されたデータのみ）

Truss C V, Benson J F, Hirsch V A , Lickiss K. Parent Training in Preprimary Competence. EDRS Availability: Microfiche and Paper 1977.

除外された研究

Badger 1981

（公表されたデータのみ）

Badger E. Effects of Teenage Parent Education Program on Teenage Mothers and Their Offspring. In: Scott, K. G.; Field, T. and Robertson, E, editor(s). *Teenage Parents and Their Offspring*. New York: Grune and Stratton, 1981:283-310.

Britner 1997

（公表されたデータのみ）

Britner P A and Reppucci N D. Prevention of Child Maltreatment: Evaluation of a Parent Education Program for Teen Mothers. *Journal of Child and Family Studies* 1997;6(2):165-175.

Brophy & Honig 1997

（公表されたデータのみ）

Brophy H E and Honig A S. Delivering Service to Teenage Mothers: Issues and Outcomes. In: EDRS Availability: microfiche, paper. 1997.

Butler et al 1993

（公表されたデータのみ）

Butler C, Rickel A U, Thomas E and Hendren M. An Intervention Program to Build Competencies in Adolescent Parents. *The Journal of Primary Prevention* 1993;13(3):183-198.

Cook et al 1995 (公表されたデータのみ)

Cook A and Troike R. Adolescent Parenting: Contrasts in Self-Esteem and Locus of Control. In: EDRS Availability: microfiche and paper. 1995.

Dickenson 1992 (公表されたデータのみ)

Dickenson N S and Cudaback D J. Parent Education for Adolescent Mothers. *The Journal of Primary Prevention* 1992;13(1):23-35.

Emmons & Nystul 1994 (公表されたデータのみ)

Emmons R D and Nystul M S. The Effects of a Prenatal Course Including PREP for Effective Family Living on Self-Esteem and Parenting Attitudes of Adolescents: A Brief Report. *Adolescence* 1994;29(116):935-938.

Field et al 1980 (公表されたデータのみ)

Field T M, Widmayer S M, Stringer S and Ignatoff E. Teenage, Lower-Class Black Mothers and Their Preterm Infants: An Intervention and Developmental Follow-up. *Child Development* 1980;51:426-436.

Field et al 1982 (公表されたデータのみ)

Field T, Widmayer S, Stoller S. Effects of Parent Training on Teenage Mothers and Their Infants. *Pediatrics* 1982;69(6):703-707.

Fulton et al 1991 (公表されたデータのみ)

Fulton A M, Murphy K R, Anderson S L. Increasing Adolescent Mothers' Knowledge of Child Development: An Intervention Program. *Adolescence* 1991;26(101):73-81.

Kissman 1992 (公表されたデータのみ)

Kissman K. Parent Skills Training: Expanding School-Based Services for Adolescent Mothers. *Research on Social Work Practice* 1992;2(2):161-171.

Koniak-Griffin 1999 (公表されたデータのみ)

Koniak-Griffin D, Mathenge C, Anderson N L R and Verzemnieks I. An Early Intervention Program for Adolescent Mothers: A Nursing Demonstration Project. *Journal of Obstetric, Gynecologic, & Neonatal Nursing*. 1999;28(1):51-59.

Porter 1984 (公表されたデータのみ)

Porter L S. Parenting Enhancement Among High-Risk Adolescents. Nursing Clinics of North America 1984;19(1):89-102.

Roosa & Vaughn 1983 (公表されたデータのみ)

Roosa M W and Vaughn L. Teen Mothers Enrolled in an Alternative Parenting Program: a comparison with their peers. Urban Education 1983;18(3):348-360.

Roosa 1984 (公表されたデータのみ)

Roosa M W. Short-term Effects of Teenage Parenting Programs on Knowledge and Attitudes. Adolescence 1984;19(75):659-666.

Treichel 1995 (公表されたデータのみ)

Treichel C J. The MELD for Young Moms Program: a national study of demographics and program outcomes. EDRS Availability, microfiche and paper 1995.

Wagner&Clayton 1999 (公表されたデータのみ)

Wagner M M and Clayton S L. The Parents as Teachers Program: Results from Two Demonstrations. The Future of Children 1999;9(1):91-115.

Weinman et al 1992 (公表されたデータのみ)

Weinman M L, Schreiber N B and Robinson M. Adolescent mothers: Were there any gains in a parent education program? Family Community Health 1992;15(3):1-10.

Westney et al 1987 (公表されたデータのみ)

Westney O E, Cole J and Munford T L. The Effects of Prenatal Education Intervention on Unwed Prosepective Adolescent Fathers. Journal of Adolescent Health Care 1988;9:214-218.

「*」は、その研究にとっての主要文献であることを示す。

その他の文献

追加文献

Babb 1994

Babb P. Teenage conceptions and fertility in England and Wales 1971-1991. *Population Trends* 1994;74:12-17.

Barlow & Coren, 2000

Barlow J and Coren E. Parenting Programmes for Improving Maternal Psychosocial Health. In: Issue 3, 2000. Oxford.: Update Software. Cochrane Library.

Barlow 1997

Barlow J. Systematic Review of the Effectiveness of Parent Training Programmes in Improving the Behaviour of 3-7 Year Old Children. Oxford: Health Services Research Unit, 1997.

Barnard 1978

Barnard K E. Nursing Child Assessment Teaching Scale Manual. Seattle: University of Washington NCAST Office, 1978.

Barnard 1989

Barnard KE, Hammond MA, Booth CL et al. Measurement and Meaning of Parent-Child Interaction. In: F Morrison, C Lord, Keating D, editor(s). *Applied Developmental Psychology*. Vol. 3. San Diego: Academic Press, 1989:39-80.

Bavolek et al 1979

Bavolek S J, Kline D F, McLaughlin J A, Publicover P R. Primary Prevention of Child Abuse and Neglect: Identification of High Risk Adolescents. *Child Abuse and Neglect* 1979;3:1071-1080.

Bilodeau 1994

Bilodeau A, Forget G, Tetreault J. Evaluation de l'efficacite d'un programme de prevention des grossesses a l'adolescence: S'exprimer pour une sexualite responsable [Evaluation of the effectiveness of a pregnancy prevention program: Speak up for a responsible sexuality]. *Canadian Journal of Community Mental Health* 1994;13(2):163-181.

Black 1996

Black M, Hutcheson J, Dubowitz H, Berenson H J, Starr R J. The roots of competence: mother-infant interaction among low-income, African-American families. *Applied*

Developmental Psychology 1996;17:367-391.

Bolton et al 1980

Bolton F G, Laner R H, Kane S P. Child maltreatment risk among adolescent mothers: a study of reported cases. American Journal of Orthopsychiatry 1980;50:489-504.

Boulton-Jones 1995

Boulton-Jones C, McIlwaine G, and McInnery, K. Teenage pregnancy and deprivation. BMJ 1995;310:398-399.

Bradley/Caldwell1977

Bradley R H, Caldwell B M. Home observation for measurement of the environment: a validation study of screening efficiency. American Journal of Mental Deficiency 1977;81(5):417-420.

Brooks-Gunn 1995

Brooks-Gunn J and Chase-Lansdale P L. Adolescent Parenthood. In: M H Bornstein, editor(s). Handbook of Parenting. Vol. 3. Status and Social conditions of Parenting. New Jersey: Lawrence Erlbaum, 1995.

Bucholz 1993

Bucholz E S and Korn-Bursztyn C. Children of Adolescent Mothers: Are they at risk for abuse? Adolescence 1993;28:361-382.

Bzoch & League 1971

Bzoch K B and League R. Assessing Language Skills in Infancy: A handbook for the multidimensional analysis of emergent language. Gainesville, Fla: The Tree of Life Press, 1971.

Catrone et al 1984

Catrone C and Sadler L Siebert. A Developmental Model for Teenage Parent Education.. Journal of School Health 1984;54(2):63-67.

Clark 1999

Clark R. The parent-child early relational assessment: A factorial validity study. Educational and Psychological Measurement 1999;59(5):821-846.

Cohen 1964

Cohen Y A. The Transition from Childhood to Adolescence. Chicago: Aldine, 1964.

Cornfield 1978

Cornfield J. Randomization by Group: A Formal Analysis. *American Journal of Epidemiology* 1978;108(2):100-102.

Danoff et al 1994

Danoff N L, Kemper K J and Sherry B. Risk Factors for Dropping Out of a Parenting Education Program. *Child Abuse and Neglect* 1994;18(7):599-606.

Davies et al 1993

Davies CM, Noll RB, Davies WH, Bukowski WM. Mealtime interactions and family relationships of families with children who have cancer in long-term remission and controls. *Journal of the American Diet Association* 1993;93:773-776.

Dawson 1997

Dawson N. The Provision of Education and Opportunities for Future Employment for Pregnant Schoolgirls and Schoolgirl Mothers in the UK. *Children and Society* 1997;11(4):252-263.

DOH 1999

Secretary of State for Health. *Our Healthier Nation: A Contract for Health*. London: Stationery Office, 1999.

Donner 1982

Donner A. An Empirical Study of Cluster Randomization. *International Journal of Epidemiology* 1982;11(3):283-286.

Erf 1981

Erf L. A Moratorium for Growth: Group Work with Adolescent Mothers. *Clinical Social Work Journal* 1981;9(1):44-56.

Erikson 1965

Erikson E H. *Childhood and Society*. Harmondsworth: Penguin, 1965.

Farran 1990

Farran DC, Clark KA, Ray AR. Measures of parent-child interaction. In: ED Gibbs and DM Teti, editor(s). *Interdisciplinary Assessments of Infants*. Baltimore MD: Brookes Publishing Co, 1990:227-247.

Farrington 1991

Farrington D P. Childhood Aggression and Adult Violence: Early precursors and later life outcomes. In: D. J. Peper and K. H. Rubin, editor(s). *The Development and Treatment of Adult Aggression*. Hillsdale, N.J.: Lawrence Erlbaum, 1991:5-29.

Forehand 1980

Forehand R, Wells K and Griest D L. An Examination of the Social Validity of a Parent Training

Program. Behavior Therapy 1980;11(4):488-502.

Frankel 1992

Frankel F and Simmons JQ. Parent behavioral training: why and when some parents drop out. Journal of Clinical Child Psychology 1992;4:322-330.

Franklin 2000

Franklin C and Corcoran J. Preventing Adolescent Pregnancy: A Review of Programs and Practices. Social Work 2000;45(1):40-52.

Guyatt et al 1994

Guyatt G H Sackett D L Cook D J. Users guides to the medical literature. II. How to use and article about therapy or prevention. A. Are the results of the study valid? Evidence-Based Medicine Working Group. Journal of the American Medical Association 1994;270(21):2598-601.

Haskett et al 1994

Haskett M E, Johnson C A, Miller J W. Individual Differences in Risk of Child Abuse by Adolescent Mothers: Assessment in the Perinatal Period. Journal of Child Psychology and Psychiatry 1994;35(3):461-476.

Held 1981

Held L. Self-Esteem and the Social Network of the Young Pregnant Teenager. Adolescence 1981;16(64):905-912.

Holden et al 1990

Holden G W, Lavigne V V and Cameron A M. Probing the Continuum of Effectiveness in Parent Training: Characteristics of Parents and Preschoolers. Journal of Clinical Child Psychology 1990;19(1):2-8.

Home Secretary 1998

Home Secretary. Supporting Families: A Consultation Document. London: The Stationary Office, 1998.

Honig 1991

Honig A S and Pfannenstiel A E. Difficulties in reaching low-income new fathers: Issues and cases. Early Child Development and Care 1991;77:115-125.

Hupertz 1995

Hupertz MK. The effectiveness of teaching parenting skills with interactive video. Unpublished senior thesis, Ohio University, Athens. 1995.

Jaeschke et al 1994

Jaeschke R, Guyatt G, Sackett D L. Users guides to the medical literature. III. How to use an article about a diagnostic test. A. Are the results of the study valid? Evidence-Based Medicine Working Group. Journal of the American Medical Association 1994;271(5):398-91.

Kacir 1997

Kacir CD. Parenting adolescents wisely: the effectiveness of an interactive video intervention in Appalachia. Unpublished mater's thesis, Ohio University, Athens 1997.

Kazdin 1990

Kazdin A E. Premature Termination from Treatment Among Children Referred for Antisocial Behavior. Journal of Child Psychology and Psychiatry 1990;31(3):415-425.

Kiselica 1999

Kiselica M S. Counselling Teen Fathers. In: Horne AM and Kiselica MS et al, editor(s). Handbook of Counselling Boys and Adolescent Males: A practitioner's guide. Thousand Oaks, CA: Sage Publications Inc., 1999:179-197.

McBride 1991

McBride B. Parent education and support programs for fathers: Outcome effects on paternal involvement. Early Child Development and Care 1991;67:73-85.

Mecham et al 1967

Mecham MJ, Jones J, Jex JL. Use of the Utah Test of Language Development for screening language disabilities. Journal of Learning Disabilities 1973;6(8):524-527.

MentalHealthEurope99

Mental Health Europe. Mental Health Promotion for Children up to 6 Years: Directory of Projects in the European Union. Brussels: European Regional Council of the World Federation for Mental Health, 1999.

Mullin 1994

Mullin E, Quigley K. and Glanville B. A controlled evaluation of the impact of a parent training programme on child behaviour and mothers' general well-being. Counselling Psychology Quarterly 1994;7(2):169-179.

Murray et al 1994

Murray D M, Rooney B L, Hannan P J, Peterson A V, Ary D V, Biglan A, Botvin G J, Evans R I, Flay B R, Futterman R, Getz J G, Marek P M, Orlandi M, Pentz M A, Perry C L. and Schinke S P. Intra-class Correlation among Common Measures of Adolescent Smoking: Estimates, Correlates, and Applications in Smoking Prevention Studies. *American Journal of Epidemiology* 1994;140(11):1038-1049.

Oz & Fine 1988

Oz S and Fine M. A comparison of childhood backgrounds of teenage mothers and their non-mother peers: a new formulation. *Journal of Adolescence* 1988;11:251-261.

Parekh 1997

Parekh A and de la Rey C. Intragroup accounts of teenage motherhood: a community based psychological perspective. *South African Journal of Psychology* 1997;27(4):223-229.

Perez 1997

Perez M, San Lorenzo S and Perez M. Embarazo adolescent. Una propuesta de intervencion [Adolescent Pregnancy. A proposal for intervention]. *Rev-Enferm* 1997;20(229):10-5.

Pharis 1978

Pharis M E. Age and Sex Differences in Expectations for Infants and Parenting Among Couples in a First Pregnancy and Among University Students. University of Texas at Austin, 1978.

Pierre 1997

Pierre N and Cox J. Teen Pregnancy Prevention Programs. *Current Opinion in Pediatrics* 1997;9(4):310-6.

Pugh et al 1994

Pugh G, De'Ath E, Smith C. *Confident Parents, Confident Children: Policy and practice in parent education and support*. London: National Children's Bureau, 1994.

Pyper 2000

Pyper C. Sexual Health Project IPPF Community Participation Approach Follow-up Evaluation 1999-2000 Unpublished report 2000.

Ragozin et al 1982

Ragozin A S, Basham R B, Crnic K A, Greenberg M T, Robinson N M. Effects of Maternal Age on Parenting Role. *Developmental Psychology* 1982;18(4):627-634.

Reis & Herz 1987

Reis J S and Herz E J. Correlates of Adolescent Parenting. *Adolescence* 1987;22(87):599-609.

Rooney & Murray 1996

Rooney B L and Murray D M. A Meta-Analysis of Smoking Prevention Programs After Adjustment for Errors in the Unit of Analysis. *Health Education Quarterly* 1996;23(1):48-64.

Roosa 1983

Roosa M W. A comparative study of pregnant teenagers' parenting attitudes and knowledge of sexuality and child development. *Journal of Youth and Adolescence* 1983;12:213-223.

Schamess 1990

Schamess G. Toward an understanding of the etiology and treatment of psychological dysfunction among single teenage mothers: part 1, a review of the literature. *Smith College Studies in Social Work* 1990;60(2):153-168.

Scott 1987

Scott M J and Stradling S G. Evaluation of a group programme for parents of problem children. *Behavioral Psychotherapy* 1987;15:24-239.

Segal 1995

Segal D. *Parenting Adolescents Wisely: Comparing interactive computer-laserdisc and linear-video methods of intervention in a parent-training program*. Athens: Ohio University, 1995.

Smith 1993

Smith, T. Influence of socioeconomic factors on attaining targets for reducing teenage pregnancies. *BMJ* 1993;306:1232-5.

SocialExclUnit 1999

Social Exclusion Unit. *Teenage Pregnancy*. London: The Stationary Office, 1999.

Stockman 1997

Stockman K D and Budd K S. Directions for Intervention with Adolescent Mothers in Substitute Care. *Families in Society: The Journal of Contemporary Human Services* 1997;78(6):617-623.

Strain et al 1981

Strain P S, Young C C and Horowitz J. Generalised behavior change during oppositional child training. *Behavior Modification* 1981;5:15-26.

Todres&Bunston 1993

Todres R, Bunston T. Parent-education programme evaluation: A review of the literature. *Canadian Journal of Community Mental Health*;12(1):225-257.

UK Statistics 1998

Office for National Statistics. 1997 Birth Statistics for England and Wales. London: The Stationary Office, 1998.

Utting et al 1993

Utting D , Bright J, Henricson L. Crime and the Family: improving child rearing and preventing delinquency. Vol. Occasional Paper 16. London: Family Policy Studies Centre, 1993.

Wakschlag 2000

Wakschlag L S and Hans S L. Early Parenthood in Context: implications for development and intervention. In: C H.Zeanah, editor(s). *Handbook of Infant Mental Health*. New York: Guilford Press, 2000.

Walker 1980

Walker L. Early parental attitude and parent-infant relationship. In: Swain, Hawkins, Walker and Penticuff, editor(s). *Exceptional Infant*. Vol. 4. New York: Brunner/Mazel, 1980.

Walker 1982

Walker LO. Toward models of mother-infant dyadic development. Final Report to the Division of Nursing, Public Health Service, US Department of Health and Human Services edition. School of Nursing, University of Texas at Austin, 1982.

Whitman et al 1987

Whitman T L, Borkowski J G, Schellenbach C J and Nath P S. Predicting and Understanding Developmental Delay of Children of Adolescent Mothers: A Multidimensional Approach. *American Journal of Mental Deficiency* 1987;92(1):40-56.

比較対照表

01 Parent-training vs. Control Group (Child Outcomes)

親-訓練群 vs. 統制群 (子どものアウトカム)

01 Nursing Child Assessment Teaching Scale (Baby's Subscale)

育児評価教育尺度 (乳幼児の下位尺度)

02 Nursing Child Assessment Teaching Scale (Responsiveness to Parent Sub-scale)

育児評価教育尺度 (親に対する反応に関する下位尺度)

03 Bzoch-League Receptive-Expressive Emergent Language Scale (Receptive Language Score)

Bzoch-League 受容表現初期言語尺度 (受容言語スコア)

04 Bzoch-League Receptive-Expressive Emergent Language Scale (Expressive Language Score)

Bzoch-League 受容表現初期言語尺度 (表現言語スコア)

05 Utah test of Language Development

言語発達のUtahテスト

02 Parent-training vs. Control Group (Parent Outcomes)

親-訓練群 vs. 統制群 (親のアウトカム)

01 Parental Attitudes Questionnaire

親の意識アンケート

02 Parenting Knowledge Test

育児知識テスト

03 About Your Child's Eating Questionnaire

子どもの食事アンケート

04 Parent Child Early Relational Assessment (modified) -Maternal Mealtime Communication

親子の初期関係評価 (改訂版) - 母親の食事時間コミュニケーション

05 Nursing Child Assessment Teaching Scale (Total score)

育児評価教育尺度 (合計スコア)

06 Nursing Child assessment Teaching Scale (Mother's Subscale)

育児評価教育尺度 (母親の下位尺度)

07 Nursing Child Assessment Teaching Scale (Cognitive Growth Fostering Sub-scale)

育児評価教育尺度 (認識発達養育下位尺度)

08 Semantic Differentials Measure -Myself as Mother

意味に関する格差尺度 - 母親としての自分

09 Semantic Differentials Measure -My Baby

意味に関する格差尺度 - 自分の子

10 Pharis Self-Confidence Scale

Pharis自信尺度

11 Caldwell Home Inventory (Birth to Three) (Maternal Involvement with the Child)

Caldwell家庭評価表 (誕生から3歳まで) (母親と子どもとのかかわり)

注

未発表CRGの注釈

出版注釈

訂正部分

なし

共同レビューワの連絡先詳細

Dr Jane Barlow

Primary Care Career Scientist

Health Services Research Unit

University of Oxford

Institute of Health Sciences

Old Road

Headington Oxford UK OX3 7LF

Telephone 1: +44 01865 226 932

Facsimile: +44 01865 226711

E-mail: jane.barlow@dphpc.ox.ac.uk

URL: <http://hsru.dphpc.ox.ac.uk/>